# ヒュウガナツの後期落果に対する 2—DP の効果

吉永勝一・古賀博已・*河瀬憲次（果樹試験場口之津支場・*現果樹試験場興津支場）

YOSHINAGA, K., H. KOGA and K. KAWASE: Effects of 2-DP(2,4-dichlroo phenoxy-2-propionicacid (triethanolamine)) to Control Preharvest Drop of Hyuganatsu Fruit

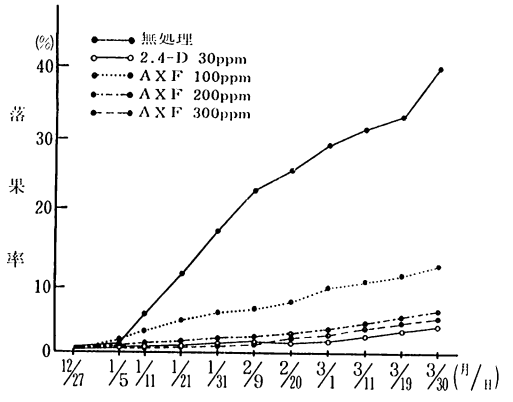
晩生カンキツ類の後期落果防止には，現在最も効果の高い薬剤は2,4-Dであるが，落果防止剤としての登録がされてなく，また，登録される可能性がないので，これにかわる薬剤の開発が急務である。そこで本試験では，AXF－1072 (2,4-dichlorophenoxy-2-propionic acid (triethanolamine)10%)について，2,4-D(アミン酸)と比較検討し，その効果が得られたので報告する。

## 1. 試験方法

当支場栽植13年生ヒュウガナツを供試し，AXF (2-DP) の濃度を100, 200, 300ppm の3段階として，散布回数は2回または1回とした。対照薬剤は2,4-D (30ppm) として，同じく散布回数は2回または1回とした。また，対照区には無散布樹を設け，4樹反復で試験を行った。1回目の散布は1979年11月30日，2回目は翌年1月26日に行った。落果調査は処理後10日間隔で3月30日まで行った。

## 2. 結果及び考察

無処理に対して薬剤処理区は，落果防止効果が認められた。



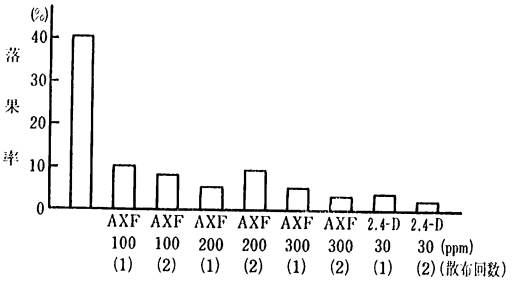

第1図　ヒュウガナツに対するAXF剤 (2-DP) の落果防止効果 (11月30日散布)

処理内では AXF (2-DP) の濃度及び 2,4-D に有意性が認められ，散布回数には差が認められなかった。

2,4-D 散布区は，落果率が3～4%に抑えられた。これと同等の効果を認めた AXF の濃度は300ppm であり，他の濃度では 2,4-D に劣った。

品質面，とくに着色について調査したが差はなかった。

2,4-D 散布区では1～2回散布区とも，新葉に軽い薬害が認められたが，AXF 散布区ではいずれの処理区においても薬害は認められなかった。




第2図　ヒュウガナツに対するAXF剤 (2-DP) の濃度，散布回数別の落果防止効果
(第1回散布：11月30日，第2回散布：1月26日)

第1表　ヒュウガナツに対するAXF剤 (2-DP) の処理と落果率

| 薬剤と濃度 / 散布回数 | AXF 100 | AXF 200 | AXF 300 | 2.4-D 30ppm | 無処理 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1回 | 10.2 | 5.8 | 5.3 | 4.1 | 40.3% |
| 2回 | 8.4 | 9.5 | 3.5 | 2.9 | |
| 平均 | 9.3 | 7.7 | 4.4 | 3.5 | |

〔有意性〕

| | |
|---|---|
| 処理 | 8 ** |
| 無・処 | 1 ** |
| 処理内 | 7 ** |
| 回数 | 1 NS |
| 薬及び濃度 | 3 ** |
| 回×濃 | 3 NS |